計算書サンプル Ａ
・現況
・必要耐力計算方法：精算法
・配置低減計算方法：偏心率法

※ 出力計算書 説明用のため、マニュアルの例題とは、内容が一部異なります。
指針本：「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」
（一般財団法人 日本建築防災協会 発行）

一般診断法（方法１）による診断計算

物件名　　福井太郎邸　耐震診断

2013年06月11日

［概要設定］の［補足条件］で、
［計算書表紙に作成日時を出力しない］が
ON の場合は省略されます。

診断士登録番号　第○○○○○号

担当診断士名　　○○○○　○○

ARCHITREND Z リフォームエディション 耐震診断 Version 2.0.0
［Ｐ評価○－Ｗ］

一般財団法人 日本建築防災協会の
木造住宅耐震診断プログラム評価番号

診断建物概要

物件名：	福井太郎邸　耐震診断	
所在地：	福井県坂井市丸岡町	
竣工年月日：	昭和60年10月	築１０年以上
建物仕様：	重い建物	桟瓦葺き
構法：	在来軸組構法	
地震地域係数Z：	1.00	福井県
軟弱地盤割増：	1.0	普通
形状割増係数：	１Ｆ　1.00	上階短辺長さ6.0m以上
	２Ｆ　1.00	上階短辺長さ6.0m以上
１階構造：	木造	混構造割増：1.0
積雪区分：	多雪区域	
積雪深さ：	1.00　m　1m以上のときは雪降しを行う	
積雪加算：	0.26Ｚ	
基礎形式：	Ⅱ：ひび割れのある鉄筋コンクリート基礎、無筋コンクリート基礎	
床仕様 1F上：	Ⅲ：火打なし	
床仕様 2F上：	Ⅲ：火打なし	
階数：	2 階建	
接合部：	Ⅲ：ほぞ差し、釘打ち、かすがい等（構面の両端が通し柱の場合）	
	Ⅳ：ほぞ差し、釘打ち、かすがい等	

１階床面積：	71.71　㎡
２階床面積：	34.78　㎡
延べ床面積：	106.49　㎡

必要耐力計算方法：	精算法
配置低減計算方法：	偏心率法

［概要設定］の内容が連動します。

上部構造評点の最低値

各階の構造評点の最低値
（総合評価 b)上部構造 参照）

１階	0.53	倒壊の可能性が高い
２階	1.05	一応倒壊しない

現況図より診断計算した場合 →「現況－＊」
補強計画より診断計算した場合 →「補強－＊」

1階 平面図

平面図データより
連動します。
浴室
洗面脱衣室
トイレ
階段
物入
ＤＫ
(6.5帖)
UP
床の間
押入
ホール
和室
(6帖)
和室
(10帖)
玄関
和室
(6帖)
2,730
3,640
1,820
8,190
3,640
1,820
4,550
10,010

2階 平面図

階段
DN
子供室
（6帖）
ローカ
寝室
（10帖）
ｸﾛｰｾﾞｯﾄ
バルコニー
2,730
3,640
6,370
910
4,550
5,460

1階 柱壁配置図

G：重心位置　S：剛心位置
※ 4分割法で、重心・剛心を計算しない場合は表示されません。

Xi, Yi：X,Y各方向の無開口壁
Xwi, Ywi：X,Y各方向の有開口壁
※「戸」とあるのは、掃き出し型開口を表します。

※斜線部分は上階位置を表す
G 重心　S 剛心
Xw・Yw 開口壁

2階 柱壁配置図

◎基準

Ｇ 重心　Ｓ 剛心
Xw・Yw 開口壁

1階 面積図

耐震診断
床面積データより連動します。

床 面 積 表<1階>			
	形 状	計 算 式	面 積
A1	矩形	5.460×6.370	34.780200
A2	矩形	3.640×1.820	6.624800
A3	矩形	4.550×6.370	28.983500
A4	矩形	3.640×0.910×0.4	1.324960
面 積		計(㎡)	71.71
		(坪)	21.69

面積の合計は、少数点以下3桁目を
四捨五入としています。

※斜線部分は上階位置を表す
G 重心

2階 面積図

床 面 積 表<2階>			
	形 状	計 算 式	面 積
A1	矩形	5.460×6.370	34.780200
面 積		計(㎡)	34.78
		(坪)	10.52

◎基準

G 重心

必要耐力の算出

階	床面積（㎡）		床面積当り必要耐力（kN/㎡）		積雪用必要耐力（kN/㎡）		地震地域係数Z		軟弱地盤割増係数		形状割増係数		混構造割増係数		必要耐力Ｑｒ（kN）
2階	34.78	×(	0.58	＋	0.26	)×	1.00	×	1.0	×	1.00	×	1.0	＝	29.22
1階	71.71	×(	0.63	＋	0.26	)×	1.00	×	1.0	×	1.00	×	1.0	＝	63.82

Rf1　＝ 34.78 ／ 71.71 ＝ 0.49
QKf12　＝ 1.3 ＋ 0.07 ／ 0.49 ＝ 1.44
QKf11　＝ 0.40 ＋ 0.60 × 0.49 ＝ 0.69
2階　0.40 × 1.44 ＝ 0.58
1階　0.92 × 0.69 ＝ 0.63

例は精算法の場合

・床面積（㎡）：床面積表　各階合計面積

・床面積当り必要耐力（kN/㎡）：［必要耐力計算方法（略算法、精算法）］の選択により、算定方法が変わります。（計算例は精算法）
また、［概要設定］の［建物重量（軽い建物、重い建物、非常に重い建物）］が関係します。

・積雪用必要耐力（kN/㎡）：［概要設定］の［積雪加算］の値を参照します。
0.26×積雪深さ（m）としています。

・地震地域係数：［概算設定］の［地震地域係数］の値を参照します。
※ 令第88条の規定に基づき告示で定められた数値

・軟弱地盤割増係数
・形状地盤割増係数
・混構造地盤割増係数
}［概要設定］の各値を参照します。

軟弱 － 地盤が非常に悪いと思われる敷地の場合、1.5とします。
形状 － 最上階以外の階の短辺の長さ4.0m未満（精算法では6.0m未満）の場合に割り増します。
混構造 － 1階がS造、RC造の場合、1.2とします。

柱・壁の耐力（無開口壁）Qw

基礎形式：Ⅱ：ひび割れのある鉄筋コンクリート基礎、無筋コンクリート基礎

1階Ｘ方向　［在来軸組構法］

方向	No	仕　様	壁基準耐力Fw (kN/m)	計 (kN/m)		接合部耐力低減Kj		壁長 (m)		Qwi (kN)	Qw= ΣQwi (kN)
X	1	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.71	×	1.82	＝	6.20	
	2	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.71	×	0.91	＝	3.10	
	3	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.91	×	1.82	＝	7.95	
	4	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.91	×	0.91	＝	3.97	
	5	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.91	×	0.91	＝	3.97	
	6	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.71	×	1.82	＝	6.20	
	7	不明(壁倍率1倍程度の耐力が見込めるが仕様が不明)		2.00	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 1.00	×	0.91	＝	1.82	
	8	石膏ボード張り (厚12)　ユーザ追加 石膏ボード張り(厚9以上)	*2.60 1.10	3.70	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.77	×	0.91	＝	2.59	
	9	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.91	×	0.91	＝	3.97	
	10	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.71	×	0.91	＝	3.10	
	11	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.91	×	0.91	＝	3.97	
	12	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.91	×	0.91	＝	3.97	
	13	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.91	×	0.91	＝	3.97	
	14	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.71	×	0.91	＝	3.10	
	15	石膏ボード張り(厚9以上) 筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 2.60 1.10	4.80	×	接合Ⅱ 基礎Ⅱ 0.71	×	0.91	＝	3.10	60.98
合計											60.98

＊印は入力者設定による仕様・壁基準耐力

方向	No	仕　　様	壁基準耐力Fw (kN/m)	計 (kN/m)		接合部耐力低減Kj		壁長 (m)		Qwi (kN)	Qw= ΣQwi (kN)
Y	6	石膏ボード張り(厚9以上)	1.10			接合Ⅱ					
		筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ	2.60								
		石膏ボード張り(厚9以上)	1.10	4.80	×	0.86	×	0.91	＝	3.76	
	7	石膏ボード張り(厚9以上)	1.10			接合Ⅱ					
		筋かい木材45x90以上 釘打ち ｼﾝｸﾞﾙ	2.60								
		石膏ボード張り(厚9以上)	1.10	4.80	×	0.86	×	0.91	＝	3.76	32.18
合計											32.18

耐震診断の無開口壁の耐力を表示します。（壁一覧ダイアログの内容）

・No：柱壁配置図の無開口壁番号

・仕様、壁基準耐力：面材（左側）、軸組、面材（右側）の仕様と壁基準耐力

① 不明壁

現況 － 調査の結果、壁倍率1倍程度の耐力を有すると判断できるが、仕様が不明な壁は、Fw「2.00kN/m」として代用しています。

補強 － 補強時は不明壁を扱うことはできません。
詳細な調査を行って仕様を明確にしてください。
残っていた場合は、耐力を評価しません。Fw「0.00kN/m」とします。
また、表紙に「※不明壁が残っているので、この計算は不適切です。」のメッセージが表記されます。

② ユーザ設定仕様

［壁基準耐力の設定］で、ユーザ追加された仕様の場合、壁基準耐力の前に「＊」記号が付き、メッセージが表示されます。
※ 追加した仕様は、所有者にその根拠を示す必要があります。

・計（kN/m）：壁基準耐力の合計。合計が10kN/mを超える場合は、10kN/mとします。

・接合部耐力低減（Kj）：1階で基礎仕様、柱接合部仕様、2階以上で接合部仕様を表示します。
柱接合部による低減係数は、指針本の表3.3（多雪区域は表3.4）より、直線補間により求めています。

柱・壁の耐力（有開口壁）Qe

1階Ｘ方向

方向	No	開口タイプ	壁基準耐力Fw (kN/m)		壁長 (m)		Qei (kN)	Qe= ΣQei (kN)
X	1	窓型(窓0.91 窓0.91)	0.60	×	1.82	=	1.09	
	2	窓型	0.60	×	1.82	=	1.09	
	3	掃き出し型	0.30	×	0.91	=	0.27	
	4	掃き出し型	0.30	×	0.91	=	0.27	
	5	掃き出し型(掃出1.82 掃出0.91)	0.30	×	2.73	=	0.82	
	6	掃き出し型	0.30	×	3.00	=	0.90	
	7	掃き出し型	0.30	×	1.82	=	0.55	
	8	掃き出し型	0.30	×	2.73	=	0.82	
	9	掃き出し型	0.30	×	1.82	=	0.55	6.36
合計								6.36

1階Ｙ方向

方向	No	開口タイプ	壁基準耐力Fw (kN/m)		壁長 (m)		Qei (kN)	Qe= ΣQei (kN)
Y	1	窓型	0.60	×	2.73	=	1.64	
	2	窓型	0.60	×	1.82	=	1.09	
	3	掃き出し型	0.30	×	0.91	=	0.27	
	4	掃き出し型	0.30	×	1.82	=	0.55	
	5	掃き出し型(掃出0.91 掃出1.82)	0.30	×	2.73	=	0.82	
	6	掃き出し型	0.30	×	0.91	=	0.27	
	7	掃き出し型(窓2.73 掃出1.82)	0.30	×	3.00	=	0.90	5.54
合計								5.54

2階Ｘ方向

方向	No	開口タイプ	壁基準耐力Fw (kN/m)		壁長 (m)		Qei (kN)	Qe= ΣQei (kN)
X	1	窓型	0.60	×	1.82	=	1.09	
	2	窓型	0.60	×	1.82	=	1.09	
	3	掃き出し型	0.30	×	3.00	=	0.90	3.08
合計								3.08

2階Ｙ方向

方向	No	開口タイプ	壁基準耐力Fw (kN/m)		壁長 (m)		Qei (kN)	Qe= ΣQei (kN)
Y	1	掃き出し型	0.30	×	0.91	=	0.27	
	2	掃き出し型	0.30	×	1.82	=	0.55	
	3	掃き出し型	0.30	×	0.91	=	0.27	
	4	窓型	0.60	×	1.82	=	1.09	
	5	窓型	0.60	×	1.82	=	1.09	3.27
合計								3.27

小数点以下3桁目を四捨五入

耐震診断の有開口壁の耐力を表示します。

- No：柱壁配置図の有開口壁番号
- 開口タイプ、壁基準耐力：（　）内は有開口壁が連続していることを示します。
  窓＋掃き出しの場合は、掃き出しの耐力となります。
  窓型 － 0.60kN/m、掃き出し型 － 0.30kN/m
- 壁長：連続している場合は、合計の長さとなります。3mを超える場合は、3mとします。

壁の耐力 Qu

階	方向	無開口壁の耐力 Qw(kN)	有開口壁の耐力 Qe(kN)	壁の耐力 Qu(kN)
2階	X	41.34	3.08	44.42
	Y	32.18	3.27	35.45
1階	X	60.98	6.36	67.34
	Y	41.29	5.54	46.83

各階、各方向における壁の保有する耐力を示します。

重心位置の算定

階	床面積(㎡)		β	区画重量	重心 (m)		区画重量×重心		重心G (m)	
	No	Ai		Wi=Ai・β	Xi	Yi	Wi・Xi	Wi・Yi	Gx	Gy
2	A1	34.780200	3.30	114.774660	7.280	5.005	835.559525	574.447173		
	計			114.774660			835.559525	574.447173	7.280	5.005
1	A1	34.780200	2.60	90.428520	7.280	5.005	658.319626	452.594743		
	A2	6.624800	3.30	21.861840	1.820	0.910	39.788549	19.894274		
	A3	28.983500	3.30	95.645550	2.275	5.005	217.593626	478.705978		
	A4	1.324960	2.60	3.444896	7.280	1.365	25.078843	4.702283		
	計			211.380806			940.780644	955.897278		
	累計			326.155466			1776.340169	1530.344451	5.446	4.692

重心位置の算定
係数（β）は、指針本の解表4.3 重心算定用簡易重量表によります。
多雪区域の最上層は、積雪荷重「1.30×積雪深さ（m）」を加算しています。

剛心位置の算定とねじり剛性

2階　X方向

壁No	位置y (m)	壁長 (m)	壁基準耐力Fw (kN/m)	接合部低減Kj	壁の耐力Qwi (kN)	Qwi×y	Qwi×(y-ys)^2
X1	8.19	0.91	4.80	0.86	3.76	30.79	31.62
X2	8.19	0.91	4.80	0.86	3.76	30.79	31.62
X3	6.37	0.91	4.80	0.86	3.76	23.95	4.39
X4	5.46	0.91	4.80	0.86	3.76	20.53	0.11
X5	5.46	1.82	4.80	0.86	7.51	41.00	0.22
X6	5.46	1.82	4.80	0.86	7.51	41.00	0.22
X7	3.64	0.91	4.80	0.86	3.76	13.69	10.24
X8	1.82	0.91	4.80	0.86	3.76	6.84	45.27
X9	1.82	0.91	4.80	0.86	3.76	6.84	45.27
Xw1	8.19	1.82	0.60	-	1.09	8.93	9.17
Xw2	8.19	1.82	0.60	-	1.09	8.93	9.17
Xw3	1.82	3.00	0.30	-	0.90	1.64	10.84
					計 44.42	計 234.93	計 198.14
					剛心　ys	5.29	

2階　Y方向

壁No	位置x (m)	壁長 (m)	壁基準耐力Fw (kN/m)	接合部低減Kj	壁の耐力Qwi (kN)	Qwi×x	Qwi×(x-xs)^2
Y1	4.55	1.82	4.80	0.86	7.51	34.17	41.83
Y2	4.55	1.82	4.80	0.86	7.51	34.17	41.83
Y3	5.46	0.91	2.20	0.98	1.96	10.70	4.12
Y4	6.37	1.82	2.20	0.98	3.92	24.97	1.14
Y5	10.01	0.91	4.80	0.86	3.76	37.64	36.13
Y6	10.01	0.91	4.80	0.86	3.76	37.64	36.13
Y7	10.01	0.91	4.80	0.86	3.76	37.64	36.13
Yw1	5.46	0.91	0.30	-	0.27	1.47	0.57
Yw2	5.46	1.82	0.30	-	0.55	3.00	1.16
Yw3	6.37	0.91	0.30	-	0.27	1.72	0.08
Yw4	10.01	1.82	0.60	-	1.09	10.91	10.47
Yw5	10.01	1.82	0.60	-	1.09	10.91	10.47
					計 35.45	計 244.94	計 220.06
					剛心　xs	6.91	

1階　X方向

壁No	位置y (m)	壁長 (m)	壁基準耐力Fw (kN/m)	接合部低減Kj	壁の耐力Qwi (kN)	Qwi×y	Qwi×(y-ys)^2
X1	8.19	1.82	4.80	0.71	6.20	50.78	37.83
X2	8.19	0.91	4.80	0.71	3.10	25.39	18.91
X3	8.19	1.82	4.80	0.91	7.95	65.11	48.50
X4	8.19	0.91	4.80	0.91	3.97	32.51	24.22
X5	8.19	0.91	4.80	0.91	3.97	32.51	24.22
X6	6.37	1.82	4.80	0.71	6.20	39.49	2.62
X7	6.37	0.91	2.00	1.00	1.82	11.59	0.77
X8	6.37	0.91	3.70	0.77	2.59	16.50	1.09

壁No	位置y (m)	壁長 (m)	壁基準耐力Fw (kN/m)	接合部低減Kj	壁の耐力Qwi (kN)	Qwi×y	Qwi×(y-ys)^2
X9	6.37	0.91	4.80	0.91	3.97	25.29	1.68
X10	5.46	0.91	4.80	0.71	3.10	16.93	0.21
X11	5.46	0.91	4.80	0.91	3.97	21.68	0.27
X12	1.82	0.91	4.80	0.91	3.97	7.23	60.38
X13	1.82	0.91	4.80	0.91	3.97	7.23	60.38
X14	0.00	0.91	4.80	0.71	3.10	0.00	101.43
X15	0.00	0.91	4.80	0.71	3.10	0.00	101.43
Xw1	8.19	1.82	0.60	－	1.09	8.93	6.65
Xw2	8.19	1.82	0.60	－	1.09	8.93	6.65
Xw3	6.37	0.91	0.30	－	0.27	1.72	0.11
Xw4	6.37	0.91	0.30	－	0.27	1.72	0.11
Xw5	5.46	2.73	0.30	－	0.82	4.48	0.06
Xw6	5.46	3.00	0.30	－	0.90	4.91	0.06
Xw7	1.82	1.82	0.30	－	0.55	1.00	8.37
Xw8	1.82	2.73	0.30	－	0.82	1.49	12.47
Xw9	0.00	1.82	0.30	－	0.55	0.00	18.00
					計 67.34	計 385.42	計 536.42
					剛心　ys	5.72	

1階　Y方向

壁No	位置x (m)	壁長 (m)	壁基準耐力Fw (kN/m)	接合部低減Kj	壁の耐力Qwi (kN)	Qwi×x	Qwi×(x-xs)^2
Y1	0.00	0.91	4.80	0.71	3.10	0.00	62.22
Y2	0.00	0.91	4.80	0.71	3.10	0.00	62.22
Y3	1.82	0.91	2.20	0.96	1.92	3.49	13.59
Y4	2.73	0.91	2.20	0.96	1.92	5.24	5.88
Y5	3.64	0.91	4.80	0.71	3.10	11.28	2.19
Y6	3.64	0.91	4.80	0.71	3.10	11.28	2.19
Y7	3.64	1.82	4.80	0.71	6.20	22.57	4.37
Y8	4.55	1.82	2.20	1.00	4.00	18.20	0.02
Y9	5.46	1.82	2.00	1.00	3.64	19.87	3.50
Y10	6.37	0.91	3.70	0.97	3.27	20.83	11.68
Y11	10.01	0.91	4.80	0.91	3.97	39.74	121.41
Y12	10.01	0.91	4.80	0.91	3.97	39.74	121.41
Yw1	0.00	2.73	0.60	－	1.64	0.00	32.92
Yw2	0.00	1.82	0.60	－	1.09	0.00	21.88
Yw3	1.82	0.91	0.30	－	0.27	0.49	1.91
Yw4	3.64	1.82	0.30	－	0.55	2.00	0.39
Yw5	5.46	2.73	0.30	－	0.82	4.48	0.79
Yw6	6.37	0.91	0.30	－	0.27	1.72	0.96
Yw7	10.01	3.00	0.30	－	0.90	9.01	27.52
					計 46.83	計 209.94	計 497.05
					剛心　xs	4.48	

偏心率算定表

階	方向	重心Ｇ (m)	剛心Ｓ (m)	偏心距離 (m)	Σ壁の耐力	Σねじり剛性	弾力半径 Re	偏心率
2階	X	5.00	5.29	0.29	44.42	198.14	3.07	0.09
	Y	7.28	6.91	0.37	35.45	220.06	3.43	0.11
1階	X	4.69	5.72	1.03	67.34	536.42	3.92	0.26
	Y	5.45	4.48	0.97	46.83	497.05	4.70	0.21

偏心率と床仕様による低減係数 eKfl

階	方向	偏心率	床仕様	eKfl
2階	X	0.09	Ⅲ	1.000
	Y	0.11	Ⅲ	1.000
1階	X	0.26	Ⅲ	0.732
	Y	0.21	Ⅲ	0.834

耐力要素の配置等による低減係数 eKfl
［概要設定］で［配置低減計算方法］を［偏心率法］とした場合、精密診断法1の「偏心率と床仕様による低減係数」と同様に算定します。

劣化度による低減係数 dK

（築１０年以上）

部位		材料、部材等	劣化事象	存在点数	劣化点数
屋根葺き材		金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある		
		瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	2	2
樋		軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	－
		縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	－
外壁仕上げ		木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある		
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある		
		モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	4	－
露出した躯体			水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	－
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある		
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	1	－
		外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある	－	1
	床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	－	－
内壁	一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	－	－
	浴室	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある		
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	－	－
床	床面	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	－	－
		廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	－	－
	床下		基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	－
合計				15	2

1-(劣化点数/存在点数) ＝ 1-(2/15) ＝ 0.87 → 0.87

劣化度による低減係数
　0.7未満の場合は、0.7とします。

存在点数が「0」の場合
　表紙に「※存在点数が0となっているので、
　この計算は不適切です。」と表記されます。

上部構造評点

階	方向	壁の耐力 Qu(kN)	配置低減係数eKfl	劣化度 dK	保有耐力 edQu(kN)	必要耐力 Qr(kN)	上部構造評点
2階	X	44.42	1.00	0.87	38.65	29.22	1.32
	Y	35.45	1.00	0.87	30.84	29.22	1.05
1階	X	67.34	0.73	0.87	42.88	63.82	0.67
	Y	46.83	0.83	0.87	33.98	63.82	0.53

上部構造評点	判定
1.5以上	倒壊しない。
1.0以上～1.5未満	一応倒壊しない。
0.7以上～1.0未満	倒壊の可能性がある。
0.7未満	倒壊の可能性が高い。

本診断は、積雪量を1.0mと仮定し、診断を実施しています。
また上部構造の評点での倒壊とは、きわめて稀に発生する大地震を想定しています。

- 壁の耐力（Qu）
- 配置低減係数（eKfl）
- 劣化度（dk）
- 必要耐力（kN）
- 保有耐力 edQu（kN）＝ Qu × eKfl × dk
- 上部構造評点＝edQu／Qr
  ※ 小数点以下3桁目を切り捨てとしています。

多雪区域においては、無積雪時と積雪時でそれぞれ診断を行い、低いほうの評点を当該建物の上部構造評点とします。

総合評価

［概要設定］の［注意事項］にてテキスト入力します。
必ず入力するようにしてください。

ａ）基礎地盤

地盤	対策	該当	注意事項
良い・普通		○	【記入例】　※調査状況に応じて記入してください。 ・地盤が悪いため、地震時に木造住宅を大きく揺らせるような揺れ方をする可能性があります。 ・地盤が液状化する可能性があります。
悪い			
非常に悪い	表層の地盤改良を行っている		
	杭基礎である		
	特別な対策を行っていない		

地形	対策	該当	注意事項
平坦・普通		○	【記入例】　※調査状況に応じて記入してください。 ・擁壁が崩れると、崩れた土砂により建物が押し出される可能性があります。 ・がけが崩れると、建物直下の地盤が崩壊する可能性があります。
がけ・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積み		
	特別な対策を行っていない		

基礎形式	対策	該当	注意事項
RC基礎	健全		【記入例】　※調査状況に応じて記入してください。 ・ほぼ健全ですが、通気孔部分にひび割れが見られます。 ・アンカーボルト等が十分な性能を発揮できない可能性のある個所があります。 ・建物が不同沈下しています。
	ひび割れが生じている	○	
無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	健全		
	軽微なひび割れが生じている		
	ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固めあり（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ床盤に緊結）		
	足固めなし		
その他			

ｂ）上部構造

階	方向	上部構造評点	
2	X	1.32	一応倒壊しない
	Y	1.05	一応倒壊しない
1	X	0.67	倒壊の可能性が高い
	Y	0.53	倒壊の可能性が高い

総合所見

【記入例】　※調査状況に応じて記入してください。

・今回行った耐震診断は日本建築防災協会「2012年改訂版　木造住宅の耐震診断と補強方法」の「一般診断法（方法１）」によるものです。

・基礎は鉄筋コンクリート布基礎ですが、目視調査で通気孔部分にひび割れが見られましたので、ひび割れのある鉄筋コンクリートの基礎として評価しました。

・外壁は表面・下部において多少錆がありますが、特に目立った損傷はありませんでした。

・1階のX・Y方向とも壁量が不足しています。
　また、2階の○方向、1階の○方向の壁バランスが悪く建物がねじれると考えられます。
　壁をバランスよく配置して壁量を増やして補強することを推奨します。

・接合部に金物の使用がありません。大地震には、梁が抜け落ちる可能性があります。
　接合部を金物で補強することを推奨します。

・構造用金物・筋かい・構造用合板等で補強し、建物全体の強度を高めることを推奨します。

・大地震の際に注意すべきは、家具の倒壊、ガラスの飛散、火の始末も大切です。

［概要設定］の［総合所見］にてテキスト入力します。